

ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 252

2016年

9～10月号

行 事 案 内

9月手賀沼探鳥会

期 日 9月11日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前8時
(サマータイムで今月まで1時間早く
なっていますのでご注意ください)
案 内 まだ残暑が厳しいかと思われ
ます。暑さ対策もお願いします。
沼面などには、端境期なりの鳥相
が見られるでしょう。今年生まれの
若鳥たちも一人前に育っているで
しょう。
解 散 11:00
担 当 松本勝英

10月手賀沼探鳥会

期 日 10月9日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 手賀沼には、コガモやマガモが渡
ってくる季節です。稲刈りが終わ
った田んぼでは、移動途中の鳥が
羽を休めているかも。空には猛
禽?! 秋の一日、是非一緒に探鳥
を楽しみましょう。
解 散 正午
担 当 村井みとい、小林寿美子

9月、10月手賀沼定点カウント

期 日 9月3日(土) 雨天延期
10月1日(土) 雨天延期
集 合 我孫子市役所 午前9時
解 散 正午予定
担 当 金子雅幸、船津登、桑森亮
連絡先 桑森亮
Tel : 04-7182-3149

9月、10月ピオトープ調査

期 日 9月1日(木) 雨天延期
10月6日(木) 雨天延期
集 合 手賀沼ピオトープ
9月: 午前8時30分
10月: 午前9時30分
案 内 9-10月は夏鳥が見られます
が、モズ、ユリカモメ、ヒヨドリ
の渡り、渡り前のチュウサギが
見られるようになります。ツツ
ドリ、カケスが見られたこと
もあります。9月には稲刈りも
始まり、斜面林は濃い緑にな
ります。9月の野草はニラ、ヌ
スビトハギなどの花が、イノ
コズチ、キンエノコロなどの
種子がなり、10月にはセイ
タカアワダチソウの花が、ス
スキの花穂が出、木では9月
にはシモツケの花、栗、楠、
カラタチ、ユズリハの実がな
ります。蝶、トンボも多く、
田と山の間の渡りをするア
キアカネも見える

ようになります。蝉も9月末まで鳴き、草むらではツユムシ、バッタ、イナゴなども見られます。草むら、空を飛ぶ昆虫、草木の花実、野鳥に秋の気配を感じながら探鳥をしてみましよう。昨年9月は16種、10月は17種の野鳥を観察しました。

参加希望の方は下記までご連絡下さい。

解散 9月：午前10時30分

10月：午前11時30分

担当 鈴木静治

Tel：080-3121-47

稲敷シギチ探鳥会

期日 9月22日(木、祝) 雨天中止
集合 我孫子駅北口 午前8時
案内 5月の「初夏のシギチ探鳥会」に続いて、猛暑をさけて、ほぼ同じルートの探鳥会です。アマサギ群はまだ残っているのでしょうか。シギチたちの夏羽の様子はどうか。

交通 自家用車分乗です。同乗者は一人1500円を運転者にお渡しください。自家用車を提供可能な方は申込時にその旨を連絡願います。

申込 松本勝英

Tel：04-7187-1704

担当 鈴木静治、松本勝英

日光あちこち探鳥会

期日 11月20日(日)～21日(月)

*「ほーほーどり」No251 下期行事計画に記載の日程が1日後ろへずれました。

集合 我孫子駅北口 ふれあい広場前 午前8時

案内 晩秋の日光を訪ね、葉を落とした樹々の中で飛来したばかりの冬鳥と、いつもと一味違う日光を散策します。探鳥は奥日光を中心に、見つけにくいアオシギに挑戦し、飛来す

る事も有るベニヒワ、オオモズ、レンジャクなどを期待しつつ、この時期見やすいキバシリやアカゲラなどを探します。散策では半月峠や霧降の滝なども訪ねたいと思います。全般的に鳥数は多くない中で、ちょっと珍しい鳥達を楽しみます。

交通 小型バス(進和観光)

定員 20名(申し込み受付順です)

宿舎 休暇村「日光湯元」

栃木県日光市湯元温泉

Tel：0288-62-2421

費用 22,000円程度

持物 観察用具、雨具、防寒具、昼食、飲み物

申込 金子雅幸まで(旅行障害保険加入の為、生年月日をご連絡下さい)

Tel：04-7133-6944

担当 弘實和昭、金子雅幸

あびこ市民活動メッセ2016

期日 9月24日(土) 13:00～17:30
9月25日(日) 10:00～15:00

会場 けやきプラザ 2Fホール他

案内 我孫子市の市民活動を発表するイベントです。総合タイトルは「市民のチカラ」で、市内の様々な市民団体が参加し発表や展示を行います。また、市と市民活動ネットワークによるフォーラムも開催されます。

<当会の出展内容等>

当会では、このイベントに継続して参加・出展しており、今回の出展内容は、スライドショーおよびパネルによる当会の活動紹介、鳥の名前当てクイズを行います。

スライドショーは当会の様々な活動を映像とナレーションで紹介します。パネルでは当会の活動状況や美しい写真を展示し、楽しいふれあいや探鳥の感動をアピールします。

鳥の名前当てクイズはプロジェクターにより野鳥の写真映像を見て名前を当てるゲーム感覚のクイズで、言わば野鳥観察を疑似体験するようなプログラムです。今回は内容

を大幅に改善し、初級・中級編に分けて各 2 パターンを作成し、「クイズに答えて楽しく学ぼう 身近な野鳥」がキャッチフレーズです。会員の皆さん、是非お立ち寄り下さい。スタッフとしてもご協力を歓迎します。

第 20 回 野鳥サロン

第 20 回野鳥サロンを下記の通り開催致します。サロンの名の通り、楽しいおしゃべりと親睦のひとつときに奮ってご参加下さい。テーマ

身近な野鳥の生態と行動・・・(桑森)
本の紹介・・・(千葉)
平岡昭利著『アホウドリを追った日本人
一攫千金の夢と南洋進出』

「教えて先輩！ここが分からない」
探鳥初心者の日ごろの疑問・・・(野倉)

日 時 9月26日(月) 9:30～11:30
場 所 我孫子北近隣センター並木本館
第3会議室

会 費 一人 300 円 (茶菓代)
申 込 千葉まで
Tel : 090-2434-4937

担 当 桑森、野倉、千葉

ジャパンバードフェスティバル (JBF2016)

期 日 11月5日(土) 9:00～16:30
11月6日(日) 9:00～15:30
会 場 手賀沼親水広場、鳥博広場(鳥の博物館駐車場) アビスタ周辺
案 内 メイン会場は手賀沼親水広場ですが、今回は水の館が改修工事中で同施設と周辺が使用できないため、一部の展示・販売等がアビスタ周辺に変わります。当会の出展は、鳥博広場のテント(予定)、カッパ噴水前展望デッキのテント、手賀沼漁協棧橋付近の船上バードウォッチング受付テントの3か所になります。

< 当会の出展内容等 >

「パネル展示」(鳥博広場テント)

当会の活動状況や会員が撮影した野鳥の写真等をパネルにして紹介します。

「野鳥の塗り絵とパタパタ工作」(鳥博広場テント)

野鳥の塗り絵とパタパタ工作を親子で楽しんでもらいます。

「庭に鳥を呼ぶ」(鳥博広場テント)

野鳥の好きな草木の実や餌を実物で紹介します。

「湖畔バードウォッチング」

湖畔の展望デッキから望遠鏡で手賀沼の鳥を見て、楽しんでもらいます。

「船上バードウォッチング」

遊覧船で手賀沼を一周し、船上から手賀沼の鳥と風景を楽しんでもらいます。

その他

今回も国際交流の一環として海外から数か国のブース展示も行われ、当会は台湾とモンゴルをサポートします。

< 前日会場設営と当日参加のお願い >

当会出展の設営は、前日 11 月 4 日(金)の 13 時 30 分から鳥博広場の当会テントにご参集下さい。その後、各担当の出展場所へ移動し、設営作業を行います。

5 日、6 日 8 時 30 分～ 各出展場所へ
* 会員の皆様の積極的なご参加とご協力をお待ちしています。

9 月役員会案内

日 時 9月11日(日) 13:00～16:00
場 所 北近隣センター並木本館
第3会議室
議 題 JBF2016 出展について
会報 253 号掲載予定記事について
第 21 回野鳥サロンについて
報告事項
・ 対外対応状況他
・ あびこ市民活動メッセの出展準備状況について
その他(議題のある場合は桑森までご連絡ください)

行事報告

6月手賀沼探鳥会

日時 2016.6.12 9:00~11:40
晴れ 微風 26

梅雨入り後で蒸し暑い日にも拘らず40名の皆さんが集まりました。6月は観察できる鳥が少ない時期ですが、今年は特に少なく、恒例のコブハクチョウの雛も見あたりませんでした。その中でもムクドリの実立ったばかりの幼鳥を見たり、カイツブリの幼鳥の声を聞くなど、この時期ならではの一面もありました。トピックスは下沼でカンムリカイツブリが見られたことで、きっと越夏する個体なのでしょう。また、上沼ではハヤブサがいつもの鉄塔にいてくれました。去年は手賀川を回りヨシゴイを観察しましたが、今年はあまり見られないようなので、通常のコースで少し早めに終了しました。

<認めた鳥>キジ、コブハクチョウ、カルガモ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、ゴイサギ、アマサギ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、トビ、サシバ、ハヤブサ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、オオヨシキリ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ホオジロ 計30種 番外：カワラバト

<参加者>村瀬和則、肥後邦彦、鈴木静治、染谷迪夫、金子幸子、大久保陸夫、佐藤さえ子、小林寿美子、西城猛、野口隆也、類地佑子、梶原裕美、梶原七珠、森本宜久、松田幸保、石渡成紀、常盤孝義、西嶋昭生、田丸喜昭、野倉元雄、北崎正典、榎本右、間野吉幸、川村美智子、玉井修一郎、佐藤弘美、松本勝英、相良直己、徳重玲子、小林博之、小林美智子、横尾佳代子、古出洋子、内田佳穂子、小玉文夫、六角昭男、宮下三禮、石井俊子、渡邊俊文（担当）桑森亮 計40名

6月手賀沼定点カウント

調査日時 2016.6.4 9:00~12:00
晴れ 風徐々に強く 22~26

本来ならば、何羽ものヒナを連れたコブハクチョウがあちこちで見られる時期であるが、何故か今年は全くヒナを連れた親鳥が見られなかった。（前年は27羽のヒナをカウント）

総数が2桁で終わるのでは...と危惧したが、辛うじて3桁に乗った。

担当してからゴイサギの観察例は無かったが、今回カッパの噴水前で小群が見られた。

調査種	上沼	下沼	合計
コブハクチョウ	9	8	17
カルガモ	18	6	24
カイツブリ	2	0	2
カワウ	18	31	49
アオサギ	2	7	9
オオバン	0	1	1
合計	49	53	102

<調査者>桑森亮、田中功、金子雅幸 計3名

6月手賀沼ピオトープ調査

調査日時 2016.6.2 9:30~10:40
快晴 中位の風 24~27

快晴、湿度が低く、風もあり、気持ちの良い日でしたが、沼、池には殆ど野鳥は見られませんでした。観察範囲外の斜面林からはキジ、コジュケイの鳴き声が聞こえます。ピオトープの池のカルガモ、ピオトープの大木にとまるハシボソガラス、スズメが田の間を歩き来し、田で採食します。田の端で採食するコブハクチョウの親子が見られました。ピオトープの葦原でオオヨシキリが囀り、木の頂上でホオジロが囀ります。空をスズメ、ツバメ、カワウ、アオサギが飛びます。木の茂み

でシジュウカラ、ヒヨドリ、モズが動きます。沼岸ではカイツブリの鳴き声が聞こえました。観察した野鳥 14 種 50 羽。他に蝶 7 種、蛾 3 種、蜻蛉 2 種、蜂 2 種、蠅 5 種、バッタ 1 種、カマキリ 1 種、カメムシ 3 種、蟻 1 種、甲虫 6 種、蜘蛛 2 種、木の花 4 種、野草の花 9 種、野草の花穂、実 8 種も観察出来ました。

< 認めた鳥 > コブハクチョウ、カルガモ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、オオヨシキリ、スズメ、ホオジロ 計 14 種 50 羽
< 調査者 > 鈴木静治、金子雅幸、蒲田知子、池田日出夫 計 4 名

7 月手賀沼探鳥会

日 時 2016.7.10 8:00 ~ 11:10
晴 弱風 27

今月からサマータイム制で集合が 8 時になりました。天気は、晴れて暑くなることが見込まれます。探鳥コースは、ヒドリ橋から第 2 機場へ歩くコースに変更されました。ヒドリ橋では、96 号鉄塔でハヤブサの成鳥が見られました。染井入落付近の手賀沼では、カイツブリの親子が 2 組、コブハクチョウの親子、アジサシの飛ぶ姿が見られました。浅間橋付近の手賀川でヨシゴイの姿を探しましたが見つからず残念でした。鳥の少ない時期ですが、参加者数より認めた鳥が多く良かったです。

< 認めた鳥 > キジ、コブハクチョウ、カルガモ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、ヨシゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、オオバン、イソシギ、アジサシ、トビ、ハヤブサ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、オオヨシキリ、セッカ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ 計 32 種 番外 カワラバト

< 参加者 > 西城猛、宮下三禮、桑森亮、肥後邦彦、野口隆也、渡邊俊文、千葉洋、常盤孝義、田丸喜昭、松田幸保、相良直己、榎本右、野倉元雄、石井俊子、佐藤弘美、松本勝

英、弘實和昭、徳重玲子、染谷迪夫、小林博之、村瀬和則、北崎正典、玉井修一郎、西嶋昭生、古出洋子、百瀬喬、小玉文夫 (担当)
船津登 計 28 名

7 月手賀沼定点カウント

調査日時 2016.7.2 9:00 ~ 11:30
うす曇り 南風がさわやか 27

今月はとうとう総計でも 2 桁しか認められなかった。そんな中、ウミネコが上沼 & 下沼で各 1 羽見られたが、この時期に手賀沼での記録はほとんど無いのでは。

下沼でガマの中に潜り込むヨシゴイを発見。手賀沼で見るのは久しぶりの事で感激。

調査種	上沼	下沼	合計
コブハクチョウ	10	10	20
カルガモ	6	0	6
カイツブリ	0	3	3
カンムリカイツブリ	0	1	1
カワウ	21	28	49
ヨシゴイ	0	1	1
アオサギ	0	2	2
ダイサギ	2	2	4
オオバン	2	2	4
ウミネコ	1	1	2
合計	42	50	92

< 調査者 > 桑森亮、船津登、金子雅幸 計 3 名

7 月手賀沼ビオトープ調査

調査日時 2016.7.7 8:30 ~ 10:30
晴 弱風 27 ~ 32

沼、水田には殆ど鳥は見えない。ビオトープ周辺では、沼岸の葦の茂みでオオヨシキリが囀り、桜の木の上でホオジロが囀る。林の大木でシジュウカラの家族が餌獲りし、ハシブトガラスが木の中程に止まる。池でカルガモが杭に止まり、道を歩く。上空をカワウ、ツバメ、スズメ、ハシボソガラスが飛ぶ。観察した野鳥 10 種 45 羽。ニイニイゼミが鳴き始め、蝶 14 種、蜻蛉 6 種と多い。芳香が

ありガクの目立つノリウツギ(品種名ミナズキ)に蝶、蜂、コガネムシ等が蜜を求め集まる。

他に木の花 6 種、実 1 種、野草の花 14 種、花穂 7 種、バツタ 2 種、カマキリ 1 種、蜂 1 種、蠅 1 種、甲虫 4 種、カメムシ 2 種、蜘蛛 1 種、蛙 2 種を観察出来ました。

< 認めた鳥 > カルガモ、カワウ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツバメ、シジュウカラ、ムクドリ、オオヨシキリ、スズメ、ホオジロ 計 10 種 45 羽。

< 調査者 > 鈴木静治、池田日出男、船津登計 3 名

乗鞍・上高地探鳥会

7月3日、4日

... 最後は滑り込み、アウト!

天野正臣

鳥だけでなく、絶景も楽しもうと企画された今回の探鳥旅行。自身は 2014 年の台湾探鳥旅行以来、体調不良等で暫く欠席していましたが回復しましたので、勇んで参加致しました。

7月3日(日)晴れた我孫子を午前7時貸し切りバス(進和観光)で出発、乗鞍へ向かいました。日曜日は商用車が少ないせいか渋滞が全くなく、予定時刻を上回る快適ドライブで10時には諏訪湖SAに到着し、湖畔に面したレストランで早めの昼食をとり、午後1時には乗鞍畳平駐車場に到着しました。乗鞍畳平(標高2702m)では、生憎の降雨と吹き飛ばされそうな強風、霧が立ち込め視界不良の状況で探鳥を断念し、標高1500m付近に立地する宿泊先周辺の探鳥に変更となりました。そこでも小雨が降ったり止んだり状況の中、約1時間30分の探鳥で10種以上の野鳥が確認出来ました。

宿泊先の「滝見館」は山の宿で、温泉はかけ流し天然温泉(白く濁った硫黄泉)と四季折々の料理でもてなしてくれる、お勧めの宿です。入浴後午後6時から夕食は、イワナの刺身、馬刺し、山菜入り天ぷらなどどれも美味しく完食しました。夕食後大広間に全員集合で二次会を開き、差し入れのモンゴ

ル製ウオッカ(39度)、日本酒(越乃寒梅)、フランス製ワインを飲みながら皆で楽しく歓談し、会員相互の親睦が深まった素晴らしいひと時でした。

翌日、午前5時起床も小雨で早朝の探鳥を断念。早目の朝食後旅館を出発し9時には上高地駐車場に到着。断続的な小雨模様で、雨合羽を着用し河童橋から明神池までの散策路(3km)を梓川の清流に沿って探鳥開始。まず清流沿いにミソサザイの澄んだ美しい囀りに聞き入っていると、日本3大鳴鳥(コマドリ、オオルリ、ウグイス)にミソサザイを加え日本4大鳴鳥にすべきとのN氏の声が聞こえましたが、まさに同感であります。その他キビタキ、ウグイス、コマドリの囀りが頻繁に聞こえましたが、カラ類の鳴き声は他所より少なく感じました。羨ましかったのは、ヤマセミやカッコウを確認出来たウオッチャーです。鳥合わせでは2日間で31種の野鳥を確認し、悪天候の中当会メンバーの探鳥能力が遺憾なく発揮されました。

午後1時に帰路につくも途中から断続的な豪雨となり、談合坂SAでは局地的な激しい雷雨にみまわれ、自身猛ダッシュ?でバスに戻る途中あと数歩の処で足がもつれて転び全身びしょ濡れです。車内から見ていた野口氏が「突然視界から消えて、何が起こったのか?」とは後の話。妻と金子氏の助けで車内へ運び込まれました。意識正常?骨折なし、両手のひらと左足膝小僧の軽い擦過傷で事なきを得ました。皆様大変な心配とご迷惑を掛けた事に、深くお詫び致します。談合坂SAを出発してほどなく、お酒の酔いも加わったのかカラオケが始まり、楽しい雰囲気で大いに盛り上がったのでした。

今回の探鳥会は天候不順で、穂高連峰などの北アルプスの大パノラマは見られませんでした。が、まずまずの探鳥結果、野鳥の奏でるオーケストラ、森林浴、温泉、美味しい食事と差し入れ、参加者との歓談が楽しく大満足でした。

最後に、事前に十分な準備をされた金子幹事、会計の労を取って頂いた野口幹事、差し入れを頂いた方々に、お礼と大いなる感謝です。

【幹事報告】

残念ながら今回は、自然の猛威を知らされ

た...探鳥会となってしまった。

1 日目：2500mまでの乗鞍は曇り空で「真にライチョウ日和！」との喜びもつかの間、あと 200m上った豊平は濃霧と強風の別世界。体を飛ばされない様にするのが精一杯で鳥を見るどころではなく、せめてと咲き誇るハクサンイチゲ、クロユリなどの高山植物を少しだけ鑑賞してすぐに下山。

2 日目：夜半から断続的に降る雨が上高地に着いてからも続き、強風で樹々がざわめく中を明神橋まで往復するも聞かれる声は少なく、多くの目で懸命に探すも鳥影は無く、目的のコマドリも声を聴くのみ。素晴らしい景観の中ライチョウとコマドリを楽しむ筈の企画が、すべて未達に終わってしまった。

帰路の高速道路でも猛烈な雨と雷で立ち往生する場面もあり、荒天続きの 2 日間だった。そんな中救いは、何時もながら温かい宿のもてなしと、終始楽しそうに談笑される皆さんの姿だった。そんな皆さんの為にも何時かは再挑戦！！

< 認めた鳥 > キジバト、カワウ、アオサギ、ホトトギス、カッコウ、アマツバメ、トビ、ヤマセミ、コゲラ、アカゲラ、モズ、カケス、ハシブトガラス、コガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、イワツバメ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、ゴジュウカラ、ミソサザイ、アカハラ、コマドリ、キビタキ、コルリ、ジョウビタキ、コサメビタキ、キセキレイ、ホオジロ 計 31 種

< 参加者 > 青木典子、天野正臣、天野睦子、安藤芳史、桑森亮、古出洋子、古賀嗣朗、古賀道子、佐藤貴子、佐藤啓子、鈴木裕爾、鈴木幸子、中西榮子、中根忠、野口洋子、松田幸保（担当）野口隆也、金子雅幸 計 18 名

新入会員オリエンテーション

6 月 25 日

今年度も、昨年 6 月以降に新入会された会員の皆様に当会の魅力を余すことなくお伝えする新入会員オリエンテーションが下

記の如く開催されました。

新入会員 22 名の内 13 名が参加され、先輩会員からの紹介、説明に目を輝かせていました。

開催日 6 月 25 日(土) 10:00~12:00

会場 水の館 3F 研修室

式次第

- 1: 歓迎の挨拶、当会運営体制(組織、役員会、事務局)紹介 間野会長
- 2: 当会の紹介 相良幹事
当会の他では得られない特徴 / 楽しみ
当会の名人たち
当会の年間活動
これまでの探鳥地と出会った鳥たち
当会のコミュニケーション
こんな時のコンタクト先
- 3: 先達に聴く探鳥の楽しみとヒント 船津幹事

探鳥の仕方

探鳥の楽しみ方

柏市(沼南地区)で確認された珍しい鳥

- 4: 今後の活動予定と参加のご案内

桑森事務局長

- 5: 質疑応答&懇談 司会 野口副会長
新入会員全員の自己紹介と当会への期待と抱負が紹介されました。

- 6: 閉会の挨拶 古出副会長

なお、参加された新入会員の皆様には当会をあまねく紹介する特製DVDが配布されました。

< 参加者 > 新入会員: 安藤芳史、石塚喜久夫、川上千里、小池勉、小林千恵子、佐藤貴子、多葉田五男、土器屋一枝、肥後邦彦、松村洋子、横尾佳代子、内田佳穂子、梶原裕美 計 13 名 会員: 小林美智子

映 写 会

7 月 24 日

本年度の映写会が、43 名の会員の皆さんの参加を得て、下記のごとく、成功裏に開催されました。

日時 7月24日(日) 9:00~12:00
会場 けやきプラザ千葉県福祉ふれあい
プラザ介護実習センター 介護実
習室

今年度も、昨年同様 15 名もの発表者に写真、動画の力作をご披露いただきました。当日は、担当幹事の石渡さんの司会進行の下、定刻通りに開会しました。

間野会長の開会挨拶の後、会員の力作・傑作の数々が順を追って発表されました。

昨年同様、各発表者から撮影時の秘話や解説もお聴きすることができ、素晴らしい感動的な作品の数々に時間も忘れ、堪能することができました。

発表者の皆様、素晴らしい作品の数々と、効率的な進行に協力いただきました。

野口副会長の挨拶で閉会し、感動の余韻に浸りながら、懇親会の会場へと移動しました。

発表者と発表タイトルは下記の通りです。

<発表者と発表タイトル> 敬称略

- 1 : 池田日出夫 [秋と春の渡り鳥たち]
- 2 : 田中功 [北岳、その高山植物]
- 3 : 古賀嗣朗 [ニュージーランド観光ツアーで撮影した鳥]
- 4 : 桑森亮 [初めて出会った鳥たち]
- 5 : 小池勉 [モンゴルの野鳥]
- 6 : 相良直己 [構造色が輝くヨシガモ]
- 7 : 百瀬喬[動画 カイツブリの親子
動画 食事中的シジュウカラ
動画 手賀川河畔で囀るセツカ
動画 サンコウチョウ]
- 8 : 松田幸保(動画)[カワガラスは力持ち]
- 9 : 吉田隆行 [2016年2月~会った鳥]
- 10 : 渡邊俊文 [Battle]
- 11 : 仲澤成二 [思い出2016]
- 12 : 野口隆也 [台湾とモンゴルの野鳥2016]
- 13 : 中西榮子 [銚子いろいろ・田んぼあちこち]
- 14 : 多葉田五男 [BATAの身近な自然野鳥編1]
- 15 : 浅野利幸 [思い出に残る鳥たち]

昨年の反省に基づき、準備時間の短縮と発表時の効率化、見栄えの改善を目的に、発表者からは事前に作品をお預かりし、予めスライ

ドショーに編集した上で、発表することとなり、この結果時間通りの効率的な運営もでき、作品の見栄えも素晴らしく大変好評でした。

今年度は、初めて小池勉さんと多葉田五男さんが発表者として加わり、素晴らしい写真をご披露されました。

また、1月に行なわれた台湾探鳥旅行、6月のモンゴル探鳥旅行での貴重な写真も複数の会員より紹介がありました。

なお、動画を除く、発表作品は、当会ホームページ、“映写会写真集”に掲載されます。当日、ご参加されなかった皆さんは、ホームページ上でお楽しみください。

<参加者> (敬称略 50音順)

浅野利幸、池田日出夫、石井俊子、金子幸子、金子雅幸、金子千恵子、川上千里、川越久枝、北崎正典、桑森亮、小池勉、古出洋子、古賀嗣朗、小玉文夫、小林寿美子、小林博之、小林美智子、志村次男、芹澤正子、田中功、多葉田五男、玉井修一郎、常盤孝義、仲澤成二、中西榮子、西嶋昭生、野口隆也、野口紀子、肥後邦彦、弘實和昭、松田幸保、松本勝英、間野吉幸、百瀬喬、森本宜久、森元洋子、吉田隆行、六角昭男、類地佑子、渡邊俊文、渡辺公子 以上 41 名

(担当幹事)石渡成紀、相良直己 計 43 名

懇 親 会

7月24日

今年の懇親会は、映写会が行われた我孫子駅南口のけやきプラザから駅の連絡通路を渡った はなぜん我孫子北口駅前店で 12 時 30 分から 14 時 30 分まで行われました。あまりにも近かったので多くの方が時間前に到着した為少し待たされましたが、例の急階段を登った 2 階が身動きできないほどの満席の状態でした。

参加者は女性 13 名、男性 30 名の計 43 名で殆どが映写会参加者でした。多くの参加数を得たのは、映写会に関心を寄せる方の数が増えた為ではと嬉しい限りです。

席順は女性だけが偏ることなく又どなたとも親しくなる様、男性は黒のナンバーを女性は赤のナンバーを引いて頂き決めました。

退院後間もない間野会長のあいさつに始まり、昨年は食後ゲームなどをしましたが、会場の状況から周りの方々との懇談にとどめました。

ただ、〈はなぜん〉のオーナーにかけあい、食事の質を落とすことなく料金のサービスをして頂くことが出来たので、会費から映写会時のお茶と15名の発表者にほんの気持ちのプレゼントをすることが出来ました。なお飲み物は各自負担ということでしたが、多くの方のご好意があり、黒字になりました。この分は会の収入に繰り入れますことをご了承いただき、参加の皆様にはお礼を申し上げます。

<参加者> 浅野利幸、池田日出男、石渡成紀、内田佳穂、梶原裕美、金子幸子、金子雅幸、金子千恵子、川上千里、北崎正典、木村稔、桑森亮、小池勉、古賀嗣朗、小玉文夫、小林博之、小林美智子、相良直己、芹澤正子、染谷迪夫、田中功、多葉田五男、千葉洋、常盤孝義、中西榮子、西嶋昭雄、野口隆也、弘實和昭、船津登、松田幸保、松本勝英、間野吉幸、百瀬喬、森本宣久、吉田隆行、六角昭男、類地佑子、渡邊俊文、渡辺公子
(担当幹事)石井俊子、小林寿美子、野口紀子、古出洋子 計43名

に一番古い名前を採用するとか、種や亜種は後の研究で変わってしまうケースも多々ある...など学会の話などが、幾つかの例を参考に説明された。

については、田中さんよりヒマラヤ超えで有名なアネハヅルよりも、インドガンは遥かに飛翔能力が高く1万m以上の高度を飛ぶが、その体の秘密について解説があった。又アネハヅルも6千m位の峠を越すが、それは適度な体の大きさや羽根の形などで上昇気流を巧みに捉える事や、彼らが何故厳しいヒマラヤを超えるかは、以前より同コースを渡りのルートとしていたのが造山運動によりヒマラヤが徐々に高くなる過程に進化が追いつくスピードだった為だろう...などの話があった。

最後は、鈴木さんからは、代表的な家禽であるガチョウ、鶏、アヒル、ドバト、十姉妹について、歴史的背景や由来が詳しく説明された。

<参加者> 青木典子、池田日出男、石渡成紀、大久保陸夫、桑森亮、古出洋子、小林千恵子、小林博之、関口小夜子、千葉洋、野口隆也、畠中暁美、松田幸保、松村洋子、松村直道、(担当)間野吉幸、田中功、鈴木静治、金子雅幸 計19名

第19回 野鳥サロン

7月26日

第19回野鳥サロンが7月26日(火)我孫子北近隣センターつくし野館で実施されたが、初めての会場に戸惑う場面もあった。

今回のテーマは、下記の3本立てでした。

キジの学名について

ヒマラヤを超える鳥の謎

家で飼う鳥 = 家禽の由来

<内容>

については、間野さんが文献によってキジの学名が違う事に気付いた事から調べた事項が発表された。その結果は、夫々の研究者が夫々の方法で調べて見解が分かっているから...と言う意外な答えであった。又、種小名のいくつかを纏めて1種とする様な場合は、歴史的

ホタルの夕べ

8月7日

日時 8月7日(日)午後7時~8時20分
観察場所 岡発戸・都部谷津ミュージアム
(主にホタル・アカガエルの里付近)
報告 当日認められたヘイケボタルの数は347頭、去年の142頭から約2.5倍増加しました。この数は、これまでホタルの観察をしてきた中で最高でした。来年も今年に続くように期待しています。
特に、ネムノキ通りと呼ばれている農道の西側の湿地には100頭位のホタルが乱舞して、さながらイルミネーションのようでした。この他にも全体的にホタルが多くでる場所がかなり増えているように感じま

した。
 この日は、やや蒸して、空には三日月がかり、薄明りでしたが、微風があり、ホテルの観賞には良い日でした。これで8年続けて3桁のホテルが観察されましたが、これも谷津の保全、整備をされているボランティアの方々のご尽力の賜物と感謝しています。維持管理を続けて10年位と聞いています。

田んぼの青々とした稲の上、斜面林の木立の間、草むらの陰、湿地、ヨシ原をゆっくりと舞い、点滅する幻想的な青い光りは、子どもから大人まで、癒しと楽しいひと時を与えてくれます。その上、今回は手のひらに載ってくれて、実際のホテルの大きさも確認できて本当に良かったです！ 何時までもこの光景が続くように祈りたい。ボランティアの方々と谷津に感謝です。

なお、この行事は、我孫子野鳥を守る会と我孫子市鳥の博物館友の会の共催で行われました。

参加者【当会会員】内田佳穂子、梶原裕美、金子雅幸、松田幸保、古賀嗣朗、古賀道子、津村勝吉、津村啓子、千葉洋、千葉史子、小林千恵子、六角昭男、芹澤正子、木村正子（担当）染谷迪夫、木村稔、桑森亮 計17名【鳥博友の会だけの会員】11名【一般の方々】14名 合計42名 （染谷 記）

7月役員会報告

日時 7月10日(日) 13:00~15:30
 場所 北近隣センター並木本館
 第3会議室

議事

- 幹事の補充選任について
 野口副会長が新任幹事に西城猛氏を推薦し、承認されました。また、佐々木隆氏が幹事を退任されました。
- JBF2016 出展について
 出展内容の骨子と主担当幹事等を下表の通り提案されました。

JBF2016 は昨年同様「手賀沼親水広場」と「アビスタ」を中心に11/5(土),6(日)に開催されますが、今年は「水の館」が改修工事で使用できないため、出展・販売等の一部がアビスタに移ります。当会は昨年と同じ「鳥博広場」にて出展予定です。出展内容等詳細は行事予定をご覧ください。

<出展グループと担当幹事ほか>

出展グループ	担当幹事(下線はリーダー)
ブース1:「身近な鳥たち、珍しい鳥たち」 パネル展示	相良、金子(雅)、北崎、千葉
ブース2:「塗り絵&パタパタ工作」 塗り絵、工作の体験、指導	野口(紀)、小林(寿)、青木、類地、金子(幸)
ブース3:「庭に鳥を呼ぶ」 野鳥の好む草木の実や餌の実物展示	鈴木、古出、西城
湖畔バードウォッチング: 望遠鏡による野鳥の観察体験	船津、小澤、村井田丸、小玉、吉田、大久保、北原
船上バードウォッチング: 遊覧船からの探鳥(1日3便運航)	松本、田中、石渡、野倉、石井、弘實、小林(美)
事務局: 総合調整、各グループの活動支援	桑森、金子(雅)、北崎、野口(隆)

3. あびこ市民活動メッセ2016 出展について

あびこ市民活動メッセ2016について、当会の出展内容と当日の対応スタッフを決定しました。詳細は行事案内をご覧ください。

4. ほーほーどり252号掲載予定記事

会報252号の掲載記事について検討し、執筆担当等を決定しました。
 なお、「日光あちこち探鳥会」の実施日に

ついて、料金低減のため 11/19(土),20(日) 予定を 11/20(日),21(月)に変更することを 決定しました。

5. 28 年度第 1 四半期会計報告について
今年度第 1 四半期の会計報告を異議なく承されました。

6. 第 20 回「野鳥サロン」について
9 月 26 日(月)午前北近隣センター 並木本館にて開催することにしました。 テーマ等の詳細は行事予定をご覧ください。

7. 報告事項
次の事項が報告されました。
新入会員オリエンテーション(6/25)

当会柏支部の柏市民交流センター活 用に関して

対外活動状況(美手連関係、あびこ市 民活動メッセ、JBF2016 関係等) 事務局報告事項

8. その他
前回役員会で設置を決めた「新規探鳥 先開拓タスクチーム」の具体的活動等につ いて意見交換し、活動を進める前に予備的 検討を行うことにしました。

以上

寄稿

輪島市で 1 年ぶりにトキとの再会

鈴木静治

1. トキの観察

5/13 輪島港から 50km 沖の日本海に浮かぶ舳倉島へ、津村さん、石塚さん、桑森さん、渡邊(俊)さんの 5 名で 5/13~17 鳥見をしました。企画された池田さんが風邪気味で参加されず、吉田さんが輪島港と舳倉島港の間を欠航の 1 日を除き毎日往復されました。昨年 5/24~25 輪島市郊外の二勢町の水田で畦にて餌獲りをするトキを観察しましたが、内心、今年も見られるといいなと思っていました。5/13 輪島港を出港するまではトキが輪島にいるという情報はなかったのですが、船内、舳倉島で聞いたところでは輪島に來ていることが判りました。5/17 舳倉島から輪島市に帰ってからの楽しみが出来ました。昨年泊まってトキの居場所を教えてもらった民宿白塔園のおかみさんに聞くと、昨年と同じ場所に今居るとのこと。日が長いので夕方ではありませんが、荷物を部屋に置くとすぐに 15 分位歩き現場に向かいました。ところがトキは水田にはいなく、舳倉島帰りの人を含む多くの人が見上げる電柱に止まっていた。しかし脚についている緑色のカラーリングが見えませんでした。右足関節下の 2 個の白と黄のカラーリングのようなものが見える。なんとか緑のカラーリング番号または金属足環番号が見えないかと場所を変えてみましたが、足環番号が少し見えるだけでした。暫く四苦八苦していると、トキが水田の方へ飛び、水田の畦で餌獲りを始めました。昨年も水田の稲が植えてあるところではなく、畦に沿って歩き、草の生えた畦の中の土に長い嘴を突っ込み餌探しています。どうもミミズを食べているようです。成書にはトキはザリガニ、カエル、タニシ、ドジョウ等を捕るとされているが、まだこれらの生物が多くないのか、またはミミズが好きなのか判らない。現在野生下のトキは佐渡島内に 160 羽、本州に 3 羽確認されている。昨年と同一個体かどうか観察していると、緑に白抜きの 04 のカラーリングが見えました。更に金属のナンバーリングの個体識別番号 12A-06804 のうち 804 を読むことが出来たので、昨年会ったトキに間違いありません。この個体は 2005 年生まれの で佐渡のトキ保護センターで 3 年間飼育された後、2008 年に第 1 回目放鳥された 10 羽のうちの 1 羽です。人に飼われた期間が長いので、人を怖がりません。人の相当近くにも近寄って餌獲りをしていました。しかしこの場所は海から 2km とあまり離れていなく、鳳至川と輪島川で海とつながっているため、上空をウミネコが飛んで来ました。ウミネコ

がトキの餌を盗ろうとしたのか上空から急降下しました。トキはびっくりしたようですが落ちて飛び立つことはありませんでした。地元の話では、輪島港に多いハシブトガラス、トビに脅されることがあるようです。カルガモも水田で餌獲りをしていましたが、トキとは食べ物が違うせい、トラブルはないようです。陽が落ちてはまだ明るく、水田の近くの葦原、林から聞こえるオオヨシキリ、ウグイス、キジなどの囀りをのんびり聞きながら、トキを飽きず眺めていると、畦の向こう側にお母さんと小学校低学年の児童がトキを見学に来ました。私とこの2人に挟まれるような恰好になったためトキはやや困惑したようで、そろそろ帰り時分と思ったのか畦に上がり、落ち着きない格好をし始めると、急に飛び立ち電柱に止まりました。その後川の下流の方へ飛び去りました。民宿の夕食時福島県から明日、舳倉島へ行く人と話をしていると、トキの話になり、本日観察した場所を教えてあげました。翌朝私たちは昨日と同じ水田に行きましたが、水田にはウミネコとカルガモがいるだけでトキは見当たりませんでした。福島県の人達は、ここから少し離れた輪島漆芸技術研究所の裏の水田で見られたようです。なお、トキは新潟県の鳥、輪島市の鳥でもあります。

2. トキの行動調査

このトキは2008.9.19 佐渡市で他の9羽と放鳥され、2009年3月に新潟市 胎内市、4月には福島市 角田市 米沢市、5月には長岡市 上越市 糸魚川市 黒部市 富山市に移動している。2010年3月には糸魚川市 黒部市 あわら市 福井市 黒部市、4月には穴水町 志賀町 輪島町 津幡町・白山市 黒部市 糸魚川市、5月には黒部市 七尾市の能登島 珠洲市(能登半島の先端) 七尾市 氷見市 高岡市 射水市 黒部市、この後トキに付けたGPSのアンテナ故障のため、消息不明となりました。2015.5.24~25(当時10歳)私たちが観察しました。その後トキ保護センターのホームページに登録されました。地元の話ではこの1ヶ月前に輪島に来たようです。11月中旬には七尾市の能登島に現れています。今年2016.5.2には輪島市の木に止まり休息するのが確認され、私たちは5.17(現在11歳)に再会しました。民宿のおかみさんの話では、輪島の漆器屋さんがトキを絵柄にするため、冬は七尾市の野生のイルカで有名な能登島へ観察に行くのだという。またインターネットでも雪の中で餌獲りするトキの写真のっています。輪島で見るトキは繁殖期特有の首の周りが黒ずんでいるが、冬の雪の中の能登島のトキは非繁殖期の白色で顔が赤く綺麗です。飛ぶと羽の内側の朱鷺色と一部青色が見え、素晴らしい光景です。

3. トキとコウノトリ

放鳥後、佐渡から本州に渡り、東北地方に修行に行き、上越、北陸に来て、最近では能登半島内を移動しているのを見ると、昨年、野田市で放鳥したコウノトリの行動と似ているようだ。コウノトリの 未来は宮城県 富士市 志摩市 野洲市 兵庫県加西市 滋賀県に、 翔は宮城県 伊東市 伊豆半島 (アルプス越え) 七尾市 高知県にいます。トキ、コウノトリ共に翼長が160cm位と大きく長距離の飛翔が可能なでしょう。

絶滅した野生のトキの最後の5羽の写真が撮られたのは1956.10.30 輪島市であり、2011年に能登地域の「能登の里山・里海」、佐渡地域が「トキと暮らす郷づくり」が世界農業遺産(国連食糧農業機関)に認定されました。能登半島はトキが暮らしやすい環境が残っている地域なのでしょう。春、輪島市に行く機会があれば是非このトキを見てください。なお輪島市内ではイソヒヨドリの囀りが至る所で聞こえました。またトキを見に行く途中の鳳至川の川岸から林に飛ぶ体は黒く、嘴の黄色いムクドリ大の鳥クロウタドリ様の鳥をみました。何か渡りの途中の鳥と思われそうですが、トキをみたい一心のところ不意に現れたので、全員写真を撮ることができませんでした。

特集寄稿

<今年6月、初めてモンゴル探鳥行が行われました。参加者からの一言感想です>

「モンゴル探鳥会 2016」の報告

野口隆也

有志10名による「モンゴル探鳥会 2016」が6月15日～22日(8日間)実施されました。この計画は約2年前からモンゴル在住の齊藤さん、トゥメンデルゲルさんとのお付き合いの中から始まり、昨年のJBFの会場で最終決定したものです。モンゴルの人口は約306万人で、国土は日本の約4倍です。

日本では見られないワシ柱?をはじめとする猛禽類の数々、カベバシリ、カオジロオタテガモ、オオチドリ、ルリガラなどの珍しい鳥を観察することができました。加えて大草原をあたかも騎馬にまたがって駆け抜けるようなランドクルーザーの醍醐味も味わうことができました。お陰様で、渡りを過ぎた時期にもかかわらず約120種の貴重な野鳥を探鳥することができました。

特にトゥメンデルゲル様ご夫妻には、ご自身の選挙中にもかかわらず、精力的に本当に心のこもったガイドをして頂き、齊藤様ご夫妻には高齢者の我々をきめ細かく献身的にフォローして頂き、参加者一同感謝・感激の極みでした。

既にモンゴルの2016年JBFへの参加も決まり、当会との交流の輪が益々広がっていくことを心から願う次第です。

阿保 進

残雪のヨリーンアム(鷲の溪谷) 岩肌を飛び回る珍鳥カベバシリの赤い姿をしっかりと目に残せず、悔しい気持ちがあります。が、再訪は「霞に千鳥」ですね

大久保陸夫

圧巻は、ゴビの草原をランドクルーザーで駆け巡る豪快な鳥見撮り。果てしなく広い草原を、車3台が数十メートルの間隔で横一列に並び、小鳥(例:オオチドリ)を探し求め、道なき道を走駆する。最初に見つけた車から、無線の連絡を受け、一斉にその車めがけて各車が集まり、鳥見撮り。まことにあって効率の良いモンゴルならではの雄大なスペクタクルだ。ヨリーンアム溪谷ではヤクが曳く馬車に乗る機会を得た。無クッションで厳しい体験だった。

桑森 亮

南ゴビの平原、砂漠を四駆車で疾駆し鳥を探すワイルドで刺激的な日々。ワシ柱ではイヌワシが小さかった。

小池 勉

ドキュメンタリーなどで見るゴビ砂漠の風景を目の当たりにして感動しました。野鳥との出会いを献身的にサポートしてくださったスタッフの皆さんに感謝です。

古賀嗣朗

モンゴル特有、草原砂漠を激走しつつ探鳥、初体験。

『日本鳥633種』にあるも、日本では見れぬ野鳥十数種も見て、感激!

小玉文夫

モンゴルは遠い国と思っていたが成田から5時間半意外と近い国だった。加えて夏は時差はゼロ。食事は意外と我々の口に合うようだ。朝8時に宿を出発、夜8時に宿へ。それから鳥合わせとかなりハードな毎日だった。

弘實和昭

探鳥に出かけた湖の畔で遊牧の集団に飲み込まれた。まず牛が来て、馬が来て、次いでヒツジとヤギと一緒に来た。最後はラクダである。何百という家畜の集団。精悍な風貌の若者たちが、馬を操りさっそうと通り過ぎてゆく。犬が後を追いかける。この次元が違ふ経験の中で、表現しにくい刺激が走りぬけた。澄み切った青空と緑の草原、白い雲と遠くに山並み、乾いた涼しい風。モンゴルの原野はすこぶる気持ちよい。新鮮な空気に触れるとハーブの香りがした。夏の草の香りだった。

間野吉幸

今回のモンゴル探鳥旅行の最大の楽しみは、猛禽との出会いでした。タカ科はヒゲワシを筆頭に12種、ハヤブサ科は4種を観察。特にヨリーンアム渓谷での鷲柱は圧巻でした。

松本勝英

ゴビ砂漠は、厳しい環境に特化した低木や野花が点在する広大な草原でした。猛禽類など初見の鳥に恵まれ、水無き川の渡河爆走の日々、楽しくも辛かった。

鳥 だ よ り

杜鵑（とけん）類の鳥たちがにぎやかに顔を出しています。初認されたのは5月24日ホトトギス、26日カッコウなどが続けて現れました。もうすぐツツドリも現れると思いますが、ジュウイチは今年は見れるのか、夏の季節のお楽しみです。

他には4月24日にオオルリ、5月24日ココシキリ、6月1日コアジサシ、7月1日コサメビタキが見られました。イソヒヨドリが初認されたとの報告もありますが、我孫子駅近くで繁殖しているとの情報もあります。

ワシタカ類では、ツミを見たとの報告がたくさんありました。ヒヨドリほどの大きさで、雀鷹と言われているツミは、夏になると見る機会が多くなります。都市が緑化されてきているのに伴い、繁殖例も増加しているといえます。サシバは繁殖が観察されています。夏日本に来て畑などに近い林で繁殖し、秋には東南アジアに帰ってゆきます。「鷹の渡り」をみせる代表的な鳥で、非常に大きな群れを作り、中にはニューギニアまで帰って行くものもいるようです。

3月を過ぎて最後に見ることの出来た鳥たちは、4月2日マガモ、4月24日オカヨシガモなどの報告がありました。

4.24[高野山] 材刈(1) さえずる
岩見恭子・富田直樹

4.24[天王台] サシヨウクイ(1) 声
浅井芝樹・小林さやか

4.26[高野山] 材刈(1) さえずる 平岡考

5.21[柏2丁目] フヨウノボリ(5) 親1が餌の
羽を巻いている間雛4が外を眺めていた。
吉田隆行

5.21[手賀沼遊歩道(高野山新田地先)]

ヒクヰ(1) 葦原の奥から鳴き声 桑森亮

5.22[柏市] ツミ(2) 雄がカラスやオナガを

追尾その後雌雄が餌を受け渡し 飯泉仁
5.23[片山(手賀の丘公園)] マガモ(2)

船津登

5.24[江蔵地] フヨウノボリ(1) 河原で餌リン
グして獲物を狙う 鈴木静治

5.24[五條谷] 朴トリス(1) 鳴き声 船津登

5.24[古戸] コシキリ(3) 葦原で葦、柳の低木
に止まり轉る 鈴木静治

5.24[古戸] フヨウノボリ(1) 体育館の屋根に
止まり、河原の芝生で獲物を食べていた

鈴木静治

- 5.25[柏] ㊦㊧'㊨'㊩(4) 成鳥 1、若鳥 3
飯泉仁 鈴木静治
- 5.25[布瀬] ㊦'㊧(3) 丘の森で囀る 初認
鈴木静治
- 5.26[江蔵地] ㊦㊧(1) 川岸近くの柳に止
まり鳴く 初認 鈴木静治
- 5.26[湖北台] ㊦㊧'㊩(1) 鳴き声 初認
村井みとい
- 5.26[古戸] ㊦㊧'㊩(2) 葦原の低い柳に止ま
り囀る 鈴木静治
- 5.26[古戸] ㊦㊧'㊩(1) 葦原近くで鳴き声
が聞こえる 初認 鈴木静治
- 5.27[手賀沼遊歩道(高野山新田地先)]
㊦㊧'㊩(1) 葦原から鳴き声 桑森亮
- 5.28[手賀] ㊦㊧'㊩(1) 遠くの森より鳴き
声 鈴木静治
- 5.28[手賀沼遊歩道(上沼田)] ㊦㊧'㊩(1)
五本松方面から鳴き声 桑森亮
- 5.28[手賀沼遊歩道(高野山新田)]㊦㊧'㊩(1)
葦原で鳴き、遊歩道を飛び越えて田圃脇
の葎中に入る 桑森亮
- 5.28[中峠] ㊦㊧'㊩(1) 7時20分、我が家
の上空を通過。声だけですが初認。
松本勝英
- 5.28[中峠] ㊦㊧'㊩(1) 頭上で旋回
松本勝英
- 5.28[中峠] ㊦㊧'㊩(1) 樹間からアカゲラが
ドラミング 松本勝英
- 5.29[戸張新田] ㊦㊧'㊩(1) 鉄塔95に止ま
っていた 吉田隆行
- 5.30[柏] ㊦㊧'㊨'㊩(3) 換気口と隣接施設
を移動 飯泉仁
- 5.30[柏市] ㊦㊧(1) 雌が巣で育雛中雄が雌
に捕獲してきたスズメをプレゼント、その後雄
が巣を監視 飯泉仁
- 5.31[片山(手賀の丘公園)] ㊦㊧(1) 枯木
に止まる、草原に降下し草にうまり見え
なくなる 船津登
- 5.31[片山(手賀の丘公園)] ㊦'㊧(2)
小枝でさえずる 船津登
- 5.31[手賀沼遊歩道(高野山新田)]㊦㊧'㊩(1)
葦叢から飛んで田圃に入り、採餌、移動
し畦を歩く 桑森亮
- 5.31[戸張地区公園] ㊦'㊧(1) (S1)が林
の中を移動しながら囀っていた
吉田隆行
- 5.31[布瀬] ㊦'㊧(3) 森で囀る
- 5.31[鷺野谷新田] ㊦㊧'㊩(1) 電柱に止まる
船津登
- 6.01[湖北台] ㊦㊧(1) 5:40頃、湖北台に
て手賀沼方向からカッコウのさえずりが
聞こえた。声は東から西方向に移動して
いました。初認。 村井みとい
- 6.01[染井入新田] ㊦'㊩(1) 水田の上空を鳴
きながら旋回する 鈴木静治
- 6.01[戸張新田] ㊦㊧'㊩(1) 鉄塔上部に止ま
り休む 鈴木静治
- 6.02[手賀沼遊歩道(高野山新田)]㊦㊧'㊩(1)
田圃で採餌、移動し畦を歩く 桑森亮
- 6.02[天王台] ㊦㊧'㊩(2) ペア(平岡考経
由) 浅井芝樹
- 6.02[酒井根] ㊦㊧'㊩(1) 夜中の0時半頃
に声が聞こえました。 横尾佳代子
- 6.03[手賀] ㊦㊧'㊩(1) 遠くで鳴いていた。
吉田隆行
- 6.03[手賀沼遊歩道(高野山新田)]㊦㊧'㊩(1)
田圃で採餌、移動し畦を歩く
桑森亮・渡邊俊文
- 6.03[手賀の丘公園] ㊦㊧'㊩(1) 木に止まっ
て餌を抑えていた。 吉田隆行
- 6.04[つくし野3丁目] ㊦㊧'㊩(1) 真夜中
12時チョット前、啼きながら上空を通過。
渡りの途中なのであろう。 田中功
- 6.04[手賀沼辺上空] ㊦'㊩(1) 上沼1
金子雅幸・桑森亮・田中功
- 6.04[手賀沼遊歩道(高野山新田)]㊦㊧'㊩(1)
田圃で採餌、移動し畦を歩く 桑森亮
- 6.04[戸張新田] ㊦㊧'㊩(1) 鉄塔96に止ま
っていた 吉田隆行
- 6.05[柏市] ㊦㊧(2) 成鳥雌雄が交尾
飯泉仁
- 6.06[片山(手賀の丘公園)] ㊦㊧'㊩(4)
船津登
- 6.06[片山(手賀の丘公園)] ㊦'㊧(1)
小枝でさえずる 船津登
- 6.07[日の出] ㊦㊧'㊩(1) NEC我孫子事
業所内で鳴きながら飛翔する姿を見まし
た。 木村稔
- 6.07[布瀬] ㊦㊧'㊩(1) 電柱から大木の茂み
に飛ぶ、茂みで鳴く 鈴木静治
- 6.07[布瀬] ㊦㊧'㊩(1) 森より囀り
鈴木静治
- 6.07[布瀬] ㊦'㊧(1) 森で鳴く

- 鈴木静治 船津登
- 6.08[北新田] カッコ1 or 複数 下見でカッコウの声が何度も聞こえた
畠中暁美・松田幸保他 8 名
- 6.08[手賀新田] ヒ (1) 電柱に止まり、鳴く
鈴木静治
- 6.08[手賀新田] サバ (1) 田より森に向け、上空を飛ぶ
鈴木静治
- 6.10[古戸] カッコ(1) 河原の林で鳴く
鈴木静治
- 6.10[古戸] コシキ(3) 葦原で囀る
鈴木静治
- 6.11[手賀沼遊歩道(岡発戸新田)] 朴ギス(1) 斜面林から鳴き声
桑森亮
- 6.11[柏市] ツミ(1) 上空を鳴きながら飛翔
飯泉仁
- 6.12[中峠] サバ (1) 散歩の最後は、サシバが、いつもの枯れ杉で締めてくれた。
松本勝英
- 6.12[柏市] ツミ(1) 成鳥雌が鳴きながら林の外に渡去、成鳥雌が小鳥を捕獲し足にぶら下げて帰還
飯泉仁
- 6.12[柏市] ツミ(2) 成鳥雌雄が交尾
飯泉仁
- 6.14[片山] 朴ギス(1) 遠くで鳴いていた。
吉田隆行
- 6.14[布佐平和台] 朴ギス(1) 鳴き声が聞こえる
鈴木静治
- 6.15[北新田] 朴ギス(1) 越流堤傍。キョ、キョ、キョと一声。
畠中暁美・松田幸保他 8 名
- 6.15[北新田] ヒ (1) 飛翔
畠中暁美・松田幸保他 8 名
- 6.15[北新田] フウコ(1) 飛翔
畠中暁美・松田幸保他 8 名
- 6.15[柏市] ツミ(5) 成鳥雌雄各 1 羽、若鳥 3 羽が林の中を移動
飯泉仁
- 6.15[布瀬] サバ (2) 上空を旋回
飯泉仁・飯泉久美子
- 6.15[鷺野谷新田] サバ (1) 電柱の天辺に飛来
飯泉仁・飯泉久美子
- 6.19[戸張新田] ハブサ(1) 鉄塔 96 に止まり狩りをしていた。
吉田隆行
- 6.19[柏市] ツミ(4) 成鳥雌が餌を運搬し帰還、その後を若鳥が鳴きながら追いかけていた
飯泉仁
- 6.20[片山] サバ (1) 電柱に止まる
- 6.20[片山(手賀の丘公園)] 朴ギス(1) 鳴き声
船津登
- 6.21[戸張新田] ハブサ(1) 鉄塔 96 に止まっていた。
吉田隆行
- 6.24[大森] 朴ギス(1) 裏山ではウグイスの囀りが絶えることなく、ホトギスも行き来しているのでここに托卵しているのではないかと睨んでいるのですが。
古出洋子
- 6.26[柏市] ツミ(3) 若鳥 3 羽が鳴きながら移動
飯泉仁
- 6.26[布佐平和台] 朴ギス(1) 森の中を移動して鳴く
鈴木静治
- 6.27[布瀬] ヒ (1) 森の中で囀る
鈴木静治
- 6.28[鷺野谷] サバ (1) 足にエサを持ち林に入る、後をハブサ 3 羽が鳴きながら追いかける
船津登
- 6.29[片山] サバ (1) 木の頂部に止まる
船津登
- 6.29[片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ(1)
船津登
- 6.29[片山(手賀の丘公園)] ヒ (1) 林の中でさえずる
船津登
- 6.30[手賀沼遊歩道(岡発戸新田地先)] 朴ギス(1) 斜面林から声が聞こえる
桑森亮
- 6.30[中峠] サバ (6) 家近くの林から餌ねだりの声頻り。我が家上空を 6 羽で輪状帆翔
松本勝英
- 6.30[布瀬] ヒ (2) 森の中より囀り
鈴木静治
- 6.30[布瀬] ヤマガラ(1) 森の大木で鳴く
鈴木静治
- 7.01[片山(手賀の丘公園)] オカ(1) 上空を飛ぶ
船津登
- 7.01[片山(手賀の丘公園)] ヒ (1) 林の中でさえずる
船津登
- 7.01[片山(手賀の丘公園)] コヒ (1) 木に止まる
船津登
- 7.01[手賀沼遊歩道(片山新田)] ヒキ(1) 田圃から声が聞こえる
桑森亮
- 7.01[中峠] サバ (複数) 朝 7 時、餌ねだりの声頻り。
松本勝英
- 7.01[中峠] ヒ 声
松本勝英
- 7.02[中峠] サバ 隣家 TV アンテナで羽

- 繕い。依然餌ねだりの声が、断続的に。
松本勝英
- 7.03[柏市] ツミ(1) 成鳥雌が林南側の木の枝に飛来 飯泉仁
- 7.04[片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ(2) 船津登
- 7.04[片山(手賀の丘公園)] 札幌(1) 林の中でさえずる 船津登
- 7.06[柏市] サバ(4) 成鳥が上空を鳴きながら旋回し、若鳥が林縁の枝に出現し鳴いていた 飯泉仁・飯泉久美子
- 7.06[布瀬新田] ヒ(1) 上空を鳴きながら旋回 飯泉仁・飯泉久美子
- 7.06[布瀬新田] フウコ(1) 電柱の天辺で捕獲してきた餌を捕食 飯泉仁・飯泉久美子
- 7.07[岡発戸新田] ヒ(1) 沼上空を飛ぶ 鈴木静治・船津登・池田日出夫
- 7.08[手賀沼遊歩道(片山新田)] ホトトギス(1) 斜面林から声が聞こえる 桑森亮
- 7.08[戸張新田] ハヤブサ(1) 鉄塔96上部に止まっていた。 吉田隆行
- 7.10[柏市] ツミ(2) 成鳥から若鳥へ餌の受け渡し 飯泉仁
- 7.11[片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ(1) 船津登
- 7.14[柏市] ツミ(1) 林南側の木で若鳥の声 飯泉仁
- 7.16[五條谷] ホトトギス(1) 鳴き声 船津登
- 7.16[柏市] サバ(1) 若鳥が枝に止まっていた 飯泉仁・飯泉久美子
- 7.16[布瀬新田] フウコ(1) 上空を飛翔 飯泉仁・飯泉久美子
- 7.16[北新田] ヒ(2) 飛翔 畠中暁美・他6名
- 7.18[戸張新田] ハヤブサ(1) 鉄塔95上部に止まっていた。 吉田隆行
- 7.19[片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ(3) 船津登
- 7.20[布瀬新田] サバ(1) 電線に止まる 船津登
- 7.20[古戸] コシヤク(2) 葦・薄の上部の葉の中で囀る 鈴木静治

カ、オオバン、オオヨシキリ、オオルリ、オナガ、カイツブリ、カッコウ、カモメ、カルガモ、カワウ、カワセミ、カワラヒワ、カンムリカイツブリ、キジ、キジバト、キビタキ、コアジサシ、ゴイサギ、コゲラ、コサギ、コサメビタキ、コチドリ、コブハクチョウ、コムクドリ、コヨシキリ、サシバ、サンショウクイ、シジュウカラ、スズメ、セグロセキレイ、セッカ、ダイサギ、チュウサギ、チョウゲンボウ、ツバメ、ツミ、トビ、ハクセキレイ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ハヤブサ、ヒクイナ、ヒバリ、ヒヨドリ、フクロウ、ホオジロ、ホトトギス、ムクドリ、メジロ、モズ、ヤマガラ、ヨシゴイ 計59種
<番外種>アヒル、カワラバト、コジュケイ

今回の投稿者の総投稿件数

浅井芝樹	2
浅井芝樹・小林さやか	1
飯泉仁	212
飯泉仁・飯泉久美子	122
岩見恭子	1
岩見恭子・富田直樹	1
金子雅幸・桑森亮・田中功	12
木村稔	2
桑森亮・渡邊俊文	3
桑森亮	63
桑森亮・大久保他	1
古出洋子	5
鈴木静治	242
鈴木静治・金子雅幸・蒲田知子	14
鈴木静治・船津登・池田日出夫	13
田中功	3
畠中暁美・松田幸保他8名	27
畠中暁美・他6名	23
平岡考	2
船津登	118
松本勝英	20
間野吉幸	24
村井みとい	2
横尾佳代子	1
吉田隆行	36

総計 950

(弘實和昭)

今回寄せられた鳥の全種名
アオサギ、アカゲラ、アマサギ、イソシギ、イソヒヨドリ、ウグイス、エナガ、オオタ

【会員だより】(ab-yacho より)

【ヒクイナ不在?】

2016.06.07 桑森亮

先週4日(土)に滝下広場付近でヒクイナが観察できると報告しましたが、翌日の5日から鳴き声が止まり、姿も見なくなりましたので、ご報告します。
4月上旬から葦原から断続的に声が聞こえていましたが、姿を見せたのは残念ながら先週1週間で終わったようです。
現地には足を運ばれた方々には空足を踏ませ申し訳ありませんでした。

【ホトトギス初認の報に触れて】

2016.06.08 木村稔

6月7日、NEC我孫子事業所内でホトトギスの鳴きながら飛翔する姿を見ました。
追伸、5月22日(日)イトーヨーカ堂(南口)駐車場5Fでイソヒヨドリの給餌を見ましたがそれ以後巣立ったらしくいなくなりました。何羽巣立ったか分っていません。
村井さん、カッコウ、ホトトギスの鳴き声情報、ありがとうございます。

その年、初めての鳴き声を聞くと嬉しくなります。定着したというより、渡り途中なのかもしれません。このような情報が、多数集まると、我孫子地区、手賀沼地区へのトケン類の飛来の時系列情報が、ひいては、地区の初認も分かってくるであろうと謂うことでしょうか。

【ホトトギスの声】

2016.06.11 神部充

いよいよ農繁期となり、毎日、忙しくしています。今日は、早朝より終日、田植えをします。
そんな訳で、いつもより早く目覚めたところ、0530頃にホトトギスの声を確認しました。
しばらく鳴いていましたが、気が付くと聞こえなくなっていました。
場所は、山梨県北杜市武川町牧原1307です。
19日には、八島湿原まで高原の鳥に会いに行ってくる予定です。
ノビタキ、ホオアカ、カッコウ、ホトトギスなどに会うのを楽しみにしています。

【中峠、今日の主役はフクロウ】

2016.06.12 松本勝英

例会後、一休みしてから、午後の散歩に行きました。いつものルートにある祠を覗いたところ2羽のフクロウに会えました。1羽は、奥の竹林へすぐに飛去してしまいましたが、1羽が杉枝から私を見下ろしてくれました。慌てて証拠写真1枚。
林を抜けて、水田にでるとアオサギが5羽、水路から飛び立ったゴイサギは、脇の水田に降り立ち、稲穂越しに挨拶、カワラヒワ9羽が砂利道、ツバメがアスファルト上で、12羽(ファミリー?)、水路際の水田にキジ、・・・など。
最後は、やはりいつものサシバが、いつもの枯れ杉で締めてくれました。
でも、やっぱり今日の主役は、フクロウでしょう。

【5/21以降の野鳥観察記録】

2016.06.15 桑森亮

ここ一月で気がつくことは次の通りです。
・私の歩きルートでは、コブハクチョウの親子を見るのは一組だけで、それも雛は4羽だったのが1羽だけになっています。他の場所でのコブハクチョウの雛を見るのが少なく、捕食圧が高まっているのかと心配です。
・オオヨシキリのソングポストも少ないようで、確実に鳴いているのは1箇所だけです。
・鳥が少ない時期ですが、遊歩道の木立ではシジウカラやスズメの幼鳥で賑やかになってきました。
ムクドリも幼鳥が見られ、今年が一番子が巣立っているのが分かります。

- ・カワセミも 4,5 月は見るものが少なくなりましたが、6 月に入り幼鳥を含め増えてきました。
- ・昨日はカムリカイツブリ 2 羽を観察しました。越夏個体なのでしょうが、色白で夏羽になっていませんでした。
- ・ヒクイナは、5/20 頃から鳴き声が聞こえ、5/31～6/4 は朝晩に姿も見られましたが、6/5 以降は声も止まり姿も見れません。どこか出張中なのでしょう。

【2 か月分の鳥だより】

2016.06.21 平岡考

エナガのヒナが高野山周辺で見られ、繁殖しているようです。山階鳥研の裏山では、コゲラが繁殖しました。

コムドリは普通に考えてこのあたりでは通過鳥と思いますが、6/2 の天王台でのつがいというのは時期的には渡りにしては遅いように思われ、不思議です。どうなってるのでしょうか？

フクロウの声は近年市内で聞ける場所が少なくなったと思いますが、岡発戸で聞かれたそうです。

渡りでは、サンショウクイのすずやかな声を聞いた所員がいました。

4/24～26 に山階鳥研でオオルリの雄が断続的に見られ、さえずりもよく聞かれました。

【霧ヶ峰高原、鳥たちのコーラスを堪能】

2016.06.19 神部充

今日は、農作業の合間を縫って、久しぶりに霧ヶ峰高原の八島ヶ原湿原(標高約 1600m)まで高原の鳥たちに会いに行ってきました。

八島ヶ原湿原の駐車場に到着すると、先ず最初に、ウグイスの賑やかな囀りが聞こえました。次に、遠くの方からカッコウの声も聞こえてきました。暫くすると、ホトトギスが近くで鳴き出しました。電線には美しいキセキレイが止まって綺麗な声で歌っていました。

八島ヶ原湿原に入る前に、先ずは、鳥たちのコーラスを聴きに林道へ行きました。

林道では、大変賑やかな鳥たちのコーラスを堪能することができました。

林道なので、「声はすれども、姿は見えず」でしたが、じっくりと耳の保養をさせてもらいました。

カッコウ、ホトトギス、ジュウイチたちの鳴き声。ジュウイチは、本当に「11、11・・・」って鳴くんですね。今日は、ジュウイチの鳴き声を聞いて、改めて感心しました。

ウグイス、オオルリの美しい歌声。これにコマドリの「ヒンカララ・・・」が加われば、日本三鳴鳥の歌声を一日で聞けたのに残念です。

この他、キビタキ、コガラ、カケスなどの声も聞こえました。

八島ヶ原湿原では、オオジシギを期待しましたが、無念にも会えませんでした。

でも、常連のノビタキ、ホオアカ、ウグイス、キジ、ビンズイたちには会うことができました。

【利根川河川敷のオオセッカ】

2016.06.21 田中功

神部さん、書き入れ時の多忙な農作業の合間のひと時、霧ヶ峰・八島湿原でのトケン類の鳴き声、草原の小鳥たちとの出会い、を堪能された由、私も、(八ヶ岳赤岳横岳登山の前か後に)訪れることができればよいな、と思っています。

此方、(日本では2～3か所の生息地しかないとされる)オオセッカの囀り飛翔に出会いたく、利根川下流笹川の河川敷・氾濫原を訪れ、最盛期のオオセッカの囀り飛翔を堪能してきました。小石を斜めに抛りあげたような放物線を描いて、多くのオオセッカが今がせんとばかりに声高に歌い、さえずり飛翔を繰り返していました。このオオセッカ、旧八郎潟地区では、見つけるのは難しくなり、仏沼(青森県)でも減少?が懸念されている由。農作業が一段落したら、こちらへまたあそびにいらっしやいませんか?

【賑やかな鳴き声】

2016.06.24 古出洋子

印西に住む古出です。我が家の東側に谷津田の埋立地があります。持ち主が太陽光発電システムを設置し周囲は柵がある為中に入ることが出来ませんが、コチドリの鳴き声がしきりにしているので、巣作りをしているのではないかと何度か柵を回って見たのですが、中央の方で発電盤の上をすべるように走っているのですが、近づくと柵の外へ飛んで行ってしまっているので、巣らしき場所は特定できませんでした。ところが今日の午前中、賑やかな鳴き声が聞こえたと思ったら、5羽のコチドリが飛んできました。眼鏡をかけていませんでしたので、親子だったのか子供だけだったのか分かりませんが嬉しくなりました。5月には隣家で巣箱を掛けることなくシジュウカラ、エナガの誕生が確認されました。裏山ではウグイスの囀りが絶えることなく、ホトトギスもその辺を起点にして行き来しているようですので、ここに托卵しているのではないかと睨んでいるのですが。

【Re . 賑やかな鳴き声】

2016.06.25 畠中暁美

それにしてもお宅の鳥事情は羨ましいです！
昨年でしたか、シジュウカラ、あなたの様子が微笑ましく よ～～く分かりましたよ。
そして今年はなんとホトトギスまでも、托卵の様子が分かると面白そうですね。
これからも楽しい情報をお願いいたします。

【ムクドリの特入り】

2016.06.25 村井みとい

本日、一日湖北台にいましたら 6 : 00 過ぎに数百と思われるムクドリの大集団が特入りをしました。他の場所でも少しずつ若いムクドリやツバメが集まってきたなと思っていたのですが、大集団の特入りを確認したのは今シーズン初めてです。
良し悪し等々は別として、今年もムクドリ君たちは元気です。
願わくばオオタカでも一緒に飛んでくれないかと、しばらく見ていましたが、それはありませんでした。

【中峠、サシバ巣立ち間近？】

2016.06.30 松本勝英

我が家周辺の林、朝 7 時前から餌をねだる声がしきりにする。9 時半ごろ、サシバ、いつもの枯れ杉から狩りに飛び出し、約 15 分後、地上 20m を真一文字にその樹間へ。

会からのお知らせ

<新入会員> 6, 7 月の新入会員はありませんでした。

ほーほーどり No. 252 (2016 年 9 ~ 10 月号)

発行 2016 年 9 月 1 日

発行人 間野吉幸

編集人 青木典子、古出洋子、小玉文夫、佐々木隆、千葉洋、野口紀子、松本勝英、宮下三禮

事務局 〒270 1143 我孫子市天王台 2 - 15 - 17 桑森亮 Tel : 04 7182 3149

URL <http://abikoyacho.org/>

郵便振替 00140 - 2 - 647587 我孫子野鳥を守る会

会費 年会費 2,000 円 (大学生・高校生 1,000 円、中学生以下 500 円、家族会員 無料)